

平成26年度第2回 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会会議録

- 1 日 時** 平成27年3月11日（水）
午後1時30分開会 午後4時終了
- 2 場 所** 埼玉県立歴史と民俗の博物館会議室
- 3 出席委員** 青木会長、浅井副会長、藤村委員、益子委員、植田委員、岩崎委員
田中委員、一ノ瀬委員、鎌倉委員、佐藤委員、鈴木委員、水澤委員
欠席委員 関口委員、須田委員、高原委員、羽生委員
- 4 事務局** 牧館長、杉山副館長、藤野教育主幹、川上主席学芸主幹、田中主席学芸主幹、鈴木さきたま史跡の博物館主席学芸主幹、木村嵐山史跡の博物館副館長、中村自然の博物館副館長、関生涯学習文化財課副課長

5 会 議

(1) 会議録署名委員指名

会長が益子委員、植田委員を指名した。

(2) 報 告

ア 平成26年度事業報告について

事務局 （平成26年度の主要事業について報告）

委 員 博物館教育利用セミナーとはどのような内容か。

事務局 学校の先生を対象に、どのように博物館を利用することができるかを紹介するものである。内容としては、昔の道具や火起こし等の体験を中心に紹介している。また、体験と合わせて展示されている昔の道具等を見ることで学習の効果が上がるということをお伝えしている。

委 員 学校の先生に来ていただいて、授業で使っていただいたり、博物館に来ていただく動機づけのためのセミナーと考えてよいか。

事務局 おっしゃるとおりである。

委 員 8月5日の博物館教育利用セミナーは参加者が1名となっているがこれは広報の仕方が悪かったのか。

事務局 8月1日は30名参加、11月13日は80名参加であるが、この日は他の研修や総会と合同でセミナーを行ったため参加者が多かった。それ以外のセミナーは直接学校に案内を出しており希望する先生のみが参加するので参加者は数人である。

参加者が少ない背景には、先生方の夏休み中の業務が多忙であるということや、このセミナーへの参加が出張扱いにならないということが考えられる。

- 委員 参加人数が少ない方が内容が濃くなるので、その分授業に反映される期待が大きくなると考えてよいか。
- 事務局 そう願いたい。
- 委員 他の特別展・企画展の会期中の観覧者数に比べて1月の企画展の会期中の観覧者数だけが少ないが、玄人好みの内容だからなのか。
個人的には魅力的な企画展だと思ったし観覧者もたくさんいたように感じたが、テーマによってこんなに違うものなのか。
- 事務局 確かに玄人好みの展示であったが、大変好評であった。埼玉新聞にも掲載していただき、その新聞を持って来館される方も多かった。
資料は1月末現在の数字である。最終的な観覧者数は4,635名であった。1月、2月としては大変健闘したと言える。
昨年度この時期に行われた企画展の観覧者数は3,682名であった。
- 委員 ゆめ体験事業の「まが玉作り」の体験人数がとても多いと思った。
当保育園の副園長が「まが玉製作キット」を購入し園児達に配ったところ、3歳から6歳までの園児がとても素敵なネックレスを作っていた。まが玉作りが楽しくて仕方ないようだった。
卒園式にも、そのまが玉ネックレスを付けて出席した。
とても良い企画だと思う。今後も期待している。
- 委員 デリバリー事業等について昨年より件数が増えているようだが、その内容を教えてほしい。また、埼玉ではどの地域に行っているのか。
- 事務局 内容については主に3つある。
1つ目は実際の土器に触れてもらう体験。
2つめは昔の衣装を着装してもらう体験。
3つ目は石臼や背負い籠、天秤棒といった昔の道具を使用する体験である。「学校と博物館の連携利用案内」という冊子に詳しく掲載している。
次に行先についてだが、主な出張先は久喜市・三郷市・上尾市、川口市である。本日も宮代町で出前事業を行っている。
3月11日現在で20件の利用があった。
(参考資料を提出)
- 委員 中学生の職場体験や高校生・大学生のインターンシップではどういった体験をするのか。また2月の社会教育主事講習の参加者が0名だが、どのような内容なのか。社会教育主事にとって大事な機会なので、このままではいけないと思う。
- 事務局 中学生の職場体験や高校生・大学生のインターンシップでは、1日ごとに、各担当（総務・施設・企画・学習支援・展示・資料調査）の業務を体験してもらっている。具体的には、図書室内の図書の整理、刊行物の発送業務、総合受付や、ゆめ体験ひろばでの来館者対応である。
- 事務局 1月末現在の数字で資料を作成したため、2月の社会教育主事講習の参加者は0名となっているが、実際には14名の参加があった。

社会教育主事講習の内容は、博物館教育利用セミナーとほぼ同じである。社会教育主事講習では、最初に博物館の概要を説明している。

事務局 補足すると社会教育主事講習は当館の主催ではなく、上野にある国立の社会教育実践センターが主催している。社会教育主事の資格を取るために、幾つかあるコースの中から歴史と民俗の博物館のコースを選択した方が当館を利用している。

委員 そのような公的教育のための講習の一端を担うということは、とても重要なことなので、今後とも推し進めてほしい。

イ 平成27年度事業計画(案)について

事務局 (平成27年度事業計画(案)について説明)

委員 骨子としては26年度の事業とあまり変わらないと思うが、何か特別な新しい事業はあるか。

事務局 10月6日に国立科学博物館が主催している教員のための博物館の日とタイアップして教育利用セミナーを開催するという、新たな形を試みている。詳細については調整中である。

委員 とても面白く、有意義な企画だと思うので充実させてほしい。

委員 特別展「戦国凶鑑－Cool Basara Style－」について、空想であるゲームのキャラクターと、学術研究に基づいて行われる展示との関係についてどのように考えてこの企画を立てているのか

事務局 この展覧会には前例があり、一昨年度、土浦の市立博物館で行われている。それが成功したということで、当館にアプローチがあった。戦国 Basara というゲームには、伊達政宗や上杉謙信といった実在した戦国武将が登場するが、ゲームのキャラクターをそのまま使うのは博物館としても抵抗がある。そこで、武将にまつわる甲冑や武具等の展覧会本体の部分を特別展示室で行い、ゲームの部分を季節展示室で行うというように部屋を分けて展示するつもりである。

またゲームの登場人物はキャラクター性を重視しているため、史実とは全く異なる表現がされている場合がある。博物館としては展示の中でその人物の正確な情報を紹介し、ゲームと史実の違いを楽しんでもらおうと考えている。

委員 展覧会は、タイトルだけでどのような内容なのかが判るような展示が望ましいのではないか。

委員 ゲームが仮想の世界であることは観覧者も分かっているので、杓子定規にゲームと展示本体を分ける必要はないと思う。それよりも、ある程度グラデーションのかかる内容にして、親御さんとお子さんが一緒に楽しめる展示にしてほしい。そうすることで、普段博物館を取り上げることのないゲーム誌等の媒体にも取り上げられることになる。それはゲームのPRにも繋がるが、博物館というものを知ってもらうチャンスでもある。そこで、話題作りのためにも学芸員にはコスプレを

して解説をしてもらいたい。それがテレビに取り上げられれば認知度も高まる。もちろん遊んではいけないが、コスプレをした学芸員が真面目な顔で史実を説明するというのは面白いと思う。乗ってくれる学芸員がいればだが。

それから、外国人にも侍や刀に興味を持っている方が多いので、そういった方に来ていただけるような工夫やブックレット等があると良いと思う。

事務局 戦国 BASARA というゲームは、30代・20代の女性に人気のあるゲームであり、中でも歴女と呼ばれる女性が夢中になっているようである。このゲームをきっかけに歴史に興味を持った女性たちは、実際の伊達政宗が歩んできた人生を学びたいという意欲がとても高いようである。一昨年度、土浦で行われた展覧会でも、隅々まで資料を読み込んでいる姿がよく見られたと聞いている。

当館としては、埼玉県と戦国武将達がどのように関わっているかを紹介し、ゲーム楽しんでいる方にはよりゲームを楽しんでいただけるように、甲冑好きの方には実際の武将がゲームではこのように描かれているのかなど、様々な世代に楽しんでもらえる内容にしたいと考えている。

27年度は改修工事の影響で、企画展が1つ実施できない。その分、夏の特別展「戦国凶鑑－Cool Basara Style－」に思い切って取り組んでいきたいと考えている。

委員 展示にゲーム等を取り入れるという話は博物館の基本姿勢にかかわることなので、内部でよく話し合い、一定の方針が出てから協議会の場などで報告してほしい。

最近、史跡を使って日本史を立体的に見せようという動きがある。博物館として、このような動きをどのように取り入れていくのかをよく議論していただきたい。予算の問題もあり難しいかもしれないが、埼玉県は北条氏等の戦国大名のやりとりがとても面白いので、埼玉の史跡や展示とからめて色々な事業を展開していただきたい。

委員 公共交通機関等へのポスターの掲示について、掲示場所や枚数の目安はあるか。伊勢崎線の各駅には根津美術館のポスターやチラシがたくさん置いてあるが、歴史と民俗の博物館も、特別展の開催時などにはそのようなアピールはしているのか

事務局 根津美術館は東武鉄道の社長が館長を務めているので、各駅に無料でポスター等を掲示することができるが、当館では予算の関係上、常に各駅にポスター等を掲示することはできない。しかし、昨年開催した特別展では、東武鉄道の開発企画課に協力していただき、東武アーバンパークラインのロゴが入ったポスターを東武線各線の空いている有料掲示板に掲示していただいた。その後の企画展開催時にもチラシやポスターの掲示を依頼しているが、なかなかスペースに空きが出ない

ので掲示されてはいない。今も地道な努力は続けている。

- 委員 歴史と民俗の博物館における「民俗」の位置付けについて伺う。
民俗という分野は資料には残らない人々の暮らしを後世に伝えていくという大切なものである。埼玉県には民俗的なものがたくさんあるので、もっとその分野に力を入れてはどうか。確かに常設展室では民俗的な展示を行っているが、特別展や企画展でも取り上げてはどうか。
- 事務局 当館は考古・歴史・民俗・美術それぞれの分野を抱えており、常設展示室では、これら全ての展示を行っている。企画展・特別展ではこれらの分野をローテーションで開催している。来年度はたまたま民俗系の企画展・特別展は開催しないが、民俗をないがしろにしているわけではない。昨年度末の平成26年3月21日から5月6日にかけて、国立民族学博物館と共催で「屋根裏部屋の博物館」という民俗系の特別展示を開催した。
- 委員 旧長瀨博物館に収蔵していた資料は、あと何年くらいで整理が終わり、展示等に活用することが出来る見込みか
- 事務局 昨年度は399点、今年度は4点受け入れた。現在ほとんどの資料が展示や調査研究に活用可能である。
- 委員 最近他県の博物館で事故が多発している。博物館職員も事故防止や資料管理のためにIPM等の努力をしていると思うが、老朽化いうものは防ぎようがない。今後ともIPM等を充実したかたちで継続させて事故等が起こらないように努めてほしい。
来年度の耐震工事の際にはそのことも考慮してほしい。
- 事務局 来年度の耐震工事は展示物への影響はほとんど無い。内容としては、特別展示室の天井を一旦はがして内部の鉄骨を補強した後、復旧するというものである。その際に発生する化学物質等は微量である。工事の中でも環境調査を行い、その数ヶ月後にも再び環境調査等を行い展示物等に影響が出ないようにする。これについては文化庁から技術的な助言等もいただいている。
また、設備等に関しては、県で予算化して定期的に大規模改修を行っている。改修の対象外となった設備に関しては、年度ごとに手持ちの予算の中で少しずつ改修を進めている。
- 委員 広報について、フェイスブックならば予算をかけずに広報できるのではないか。ホームページでの広報だと誰かが意志を持ってアクセスしなければ情報を得られないが、フェイスブックならば情報を自動的に受け取ることになるのでスマートな情報提供ができると思う。他の博物館では既に取り入れているところもあるので、当館でも検討してほしい。

ウ 博物館評価について

- 事務局 (各博物館の博物館評価「評価シート」について中間報告)
- 委員 歴史と民俗の博物館の「博物館魅力アップ活動」について、様々な分野の改善とはどのようなことか
- 事務局 「博物館魅力アップ活動」とは、当館の総務・施設・企画・学習支援・展示・資料調査の6つの担当が、自らの業務、または他の担当の業務でも改善したほうが良いと思われる項目を出し合い、改善し、再び訪れたい博物館として館の快適性を高め、磨き上げていくということを目的として全館で取り組んでいる活動である。
- 一例としては、入館者用休憩スペースの整備や学芸員の事務的な負担を軽減することによって、入館者のために使える時間を増やすというものなどがある。このような改善項目が約40程ある。
- 委員 評価制度全般について博物館だより27号の5Pに「最近、学芸員から解説を聞く機会がほとんど無くなった。サービスが低下しているのに料金は上がっている」という記述があるがこれは事実なのか。事実でないならば利用者の誤解を解かなくてはならない。もし仮に事実であれば、博物館評価シートにA評価が並んでいるというのは博物館の自己評価と県民側からの評価に落差があるということになるので、この差を埋めていかなければならない。
- 事務局 当館では企画展・特別展開催時の土曜日もしくは日曜日に展示解説を行っている。その他に、スポット展示等があれば、解説を行っているので展示解説が減っているということはない。
- 委員 博物館評価は館の基準で行っていると思うので、博物館アンケートの設問の仕方を変えてはどうか
- 委員 嵐山史跡の博物館のボランティア組織の見直しについて、どのように行ったか。また、小学校3年生の授業とリンクした体験メニューとはどのようなものか
- 事務局 当館のボランティアは、高校生ボランティア・サポータークラブ・体験学習ボランティア・ガイドボランティア・チェーンソーの講習を受けたボランティアの5つの区分に分かれている。
- 今年度新たに新設されたのはチェーンソーの講習を受けたボランティアである。敷地内の古い木や枝枯れした木等、倒木や落枝の危険がある木を切る活動をしていただいている。
- 小学校3年生の授業には「昔の暮らしの体験」というものがあり、当館に体験学習に訪れる。体験の内容は石臼で、きなこや抹茶を作ったり、「背負子」という道具を使い薪を運ぶ等の体験をしている。こちらは体験学習ボランティアにお手伝いいただいている。
- 今年度これらの活動に参加したボランティアは800名を超えた。
- 委員 3月2日に開催された博物館小委員会での意見について、全体的にはどのようにして集客数を伸ばしていくかという意見が多かった。

一ノ瀬委員からはパンフレットの多言語化について歴史と民俗の博物館ではどのような取り組みがなされているかという質問があった。それについては、ミュージアムヴィレッジ大宮公園で多言語の共通パンフレットを作っているという回答があった。

水澤委員からは常設展の観覧者を増やす集客や宣伝の方法や、常設展での工夫等、具体的な御提案があった。

鎌倉委員からは、民俗展示室がリニューアルされたのは良かったが、常設展示の中にはまだ情報が古いままのものがあるように思うので、そういった部分の展示替えを検討していただきたいという御意見があった。また、博物館評価全館共通の数値目標について、前年度の数値の増減の影響で、どうしてもC評価になってしまうことがある。

現状と評価が合っていないということについて、数値設定の仕方の問題を認識した。という御意見をいただいた。

委員 博物館側の定めた評価基準と個人の評価基準では噛み合わないのは仕方ない。今後はユーザー側の評価をどのように取り入れていくかが課題である。

委員 ただ資料が並べてあるだけではなく、ポイントごとに昔の人々の暮らしている姿が浮かぶような、立体的な展示をしていただきたい。

(3) 次回委員会の日程

平成27年7月(予定)

上記内容について確認する。

署名委員 _____ ㊟

署名委員 _____ ㊟